

広葉樹コンテナ苗生産技術の検討（R3～7）

国補：林業普及情報活動システム化（林業試験研究情報調査）

久保 健・小島 靖

1. はじめに

令和2年4月に「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」が施行され、これに基づき令和3年度から開始される「混交林誘導整備事業」では、「地域に適応した高木種」としてケヤキ、ミズナラ、トチノキ、カエデ類等が示されているが、これらのコンテナ苗育苗にかかる知見は未だ少ない。本課題においては、これまで林業樹種（スギ、ヒノキ）について蓄積した技術を基に、導入対象となる広葉樹にかかるそれぞれの育苗特性を明らかにし、そこで得られた知見を生産者に普及する。

令和4年度では、県内種苗生産者の広葉樹種苗の安定生産・供給を目的として、先進地（鳥取県八頭町）において生産状況調査を行い、広葉樹ポット苗生産方法に関する情報を収集するとともに、県内の広葉樹種子採取が可能な母樹の探索を行い生産事業者に対して情報を提供するとともに、広葉樹コンテナ苗の大型化試験にかかる準備を実施した。

2. 材料と方法

（1）先進地におけるコンテナ苗の生産技術の調査

広葉樹種苗の先進事例1箇所（徳島県阿波市）について、①広葉樹苗生産に取り組んだ経緯、②広葉樹苗生産における課題等について調査した。

（2）広葉樹母樹の探索

令和5年度5・8～10月に、吉野郡4カ所（東吉野村杉谷、下北山村浦向～十津川村上葛川、上北山村西原（和佐又林道））、宇陀市1カ所（室生向測）、高取町1カ所（高取城趾）において、開花状況、着花状況、充実状況、実生芽生え等について、目視により調査した。

（3）広葉樹苗コンテナ苗の大型化試験（準備）

高取町内で採種したヤマザクラ（センター内）及びケヤキ（高取城趾）種子を播種し発芽した幼苗を、大型Mスターコンテナ及び大型ポット（いずれも約1,500cc）に移植して、微量の液肥を与えて育苗した。令和6年度初夏に施肥条件による成長について検討する。

3. 結果と考察

（1）先進地におけるコンテナ苗の生産技術の調査

徳島県阿波市：従来の林業種苗（スギ・ヒノキ）に加えて広葉樹コンテナ苗生産に取り組む生産者苗圃（徳島県苗組所属）を訪問して情報収集した。①低海拔地域での利用を想定して樹種（クヌギ・コナラ・ケヤキ・ヤマモミジ・テツカエデ・ヤマボウシ）を絞り生産している、②生産する広葉樹苗の利用促進のため、「山づくりの提案」等の活動を検討している、③2年前から造林事業部を起業して、種苗生産事業と併せた経営効率化を進める、等育苗にかかる情報を得た。

（2）広葉樹母樹の探索

上記調査地では、ウリハダカエデ・ミズナラ・イタヤカエデ、ミズメ・オニグルミ・モチツツジ・コバノミツバツツジ、ケヤキ、アサダ、クヌギ、ヤマザクラ等について、結実を確認したが豊凶に差が見られ、充実種子が少ない傾向となった。令和4年同様は梅雨期の降水量が少なかったためと推測された。